

いけうち

乾燥環境が招く印刷不良と引火リスク グラビア印刷のための戦略的加湿

霧のいけうち（株）いけうち）は、乾燥による静電気が引き起こす引火リスクや印刷不良につながる印刷工場の現場課題に対し、「湿度管理」という視点から、安全性と品質を両立する加湿システムを提案している。中でも省エネ性とスピード加湿を両立できるミスト噴霧式加湿システム「AirHYBRID（エアハイブリッド）」は、換気量の多い印刷現場でも安定した湿度環境づくりを支援できるものとなっている。

一方、静電気による発火リスクを認識している。グラビア印刷工場では、有機溶剤を扱う工程特性上、換気量が多く、空間全体の湿度を維持しにくい環境になりがちである。その結果、印刷機周辺で静電気が発生しやすくなり、火花がインキパンに引火する危険性も高くなっている。さらに湿度不足はフィルムへのゴミ付着やツツ汚れ（ツツ不良）など、印刷不良の発生要因にもなる。

「加湿しても換気量が多いため、すぐ乾燥してしまう」と「換気量に合わせて加湿すると、コストがかかり過ぎる」といった理由から、十分な対策が講じられない現場も多い。近年のエネルギー価格高騰や脱炭素への対応などが求められるなか、印刷現場では安全性・品質・コスト・環境への配慮を同時に成立させる加湿システムへの関心が高まっている。

こうした課題への有効な選択肢として注目されているのが、ミスト噴霧式加湿システム「AirHYBRID」である。微細なミストを噴霧する方式のため、運用条件によっては蒸気加湿と比べてランニングコストを約1/3〜1/5まで低減できる。重油を使用せず燃焼工程を必要としないことから、CO₂排出量の低減にも寄与する。



グラビア印刷は換気量が多く、湿度の維持が課題。製印体験云詳細

AirHYBRIDは、省エネ性に優れた1流体加湿と、高精度な制御が可能な2流体加湿を組み合わせたハイブリッド加湿システムである。稼働してから湿度を一定値以上にするまでの速さと運転中の湿度維持能力を両立し、換気量の多い工場でも、印刷機周辺の湿度を効率よく維持しやすい点が特長である。

適切な湿度環境を維持することで、静電気障害の抑制や引火リスクの低減、粉塵の沈降促進、ゴミ付着・ツツ不良といった印刷不良の低減が期待できる。さらに、省エネ運用によるコスト削減と環境負荷低減は、操業の安定化や中長期的な設備運用の安心感にもつながる。

019971084

【5面広告】

蒸気加湿からの約80%※
切り替えて、CO₂排出量を削減できる

- ✓ 現場を濡らさない最適湿度で静電気対策
- ✓ CO₂削減量のシミュレーションをご提案

※弊社シミュレーション結果より

0120-997-084 [営業時間] 09:00-17:00 (平日)

霧のいけうち | AirHYBRID